

多面的・多角的な思考を促す平和教育の実践 —真珠湾攻撃および長崎への原爆投下に関する全天球 VR 教材の活用—

片山 桂維 (10115030)

1. はじめに

安達ら (1996) は平和教育において、被害の面だけではなく、加害面の教育の必要性について述べた。また、伊藤 (2015) は、自国の被害と加害を重ね合わせ、平和について考え続ける必要があると述べた。さらに、森田 (2000) は平和教育において、一人ひとりが自分の見解をもち、対話・討論を通して異なる見解を知り、相互にそれを認め合うことが必要であると示している。

一方、Setozaki *et al.* (2017) は、戦争の加害と被害との両面から学ぶ、次世代型の平和学習用教材として、全天球 VR 教材を開発した。なお、本教材は真珠湾攻撃および、長崎への原爆投下による被害の実相について学ぶことをねらいとして開発された。また、長崎の原爆被害を学ぶ全天球 VR 教材を用いた実践から、学習者の興味や意欲を向上させ、平和教育での効果的な利用が期待できることが示された。しかしながら、全天球 VR 教材を活用し、戦争の加害と被害について学ぶ平和教育の実践には至っていない。

そこで、本研究は真珠湾攻撃および長崎への原爆投下の被害の実相に関する全天球 VR 教材を用いた平和教育を実践し、学習者の多面的・多角的な思考を促すことを目的とした。

2. 実践・評価方法

本研究では、鹿児島県枕崎市の小学4年生 26 名を対象に、全天球 VR 教材を用いた平和教育を実践した。実践の様子を図 1 に示す。まず、児童らは全天球 VR 教材を使用して真珠湾攻撃と長崎原爆の被害の実相について学んだ。次に、原爆が投下された当時の長崎市民、枕崎市民、ホノルル市民の立場で議論を進めた。なお、議論のテーマは「原子爆弾が長崎に落とされたことをどう思うか」であった。その後、テーマに対する自分の考えをワークシートに記入し、学級全体で発表し合った。また、児童らは授業前、授業中、授業後に、原爆の是非について、「許せない」、「仕方なかった」、「わからない」の中から選択し、その回答を選択した理由をワークシートに記述した。さらに、授業後に主観評価によるアンケート調査を実施した。

児童らは、「態度」、「理解度」、「多面的・多角的な思考」、「全天球 VR 教材による学習効果」、「興味・関心・意欲」の 5 つのカテゴリで構成された 9 つの質問項目に対して、4 件法によって回答した。さらに、肯定回答 (とてもそう思う、ややそう思



図 1 全天球 VR 教材を使用した実践の様子

う) と否定回答 (あまりそう思わない、まったくそう思わない) に分類し、直接確率計算によって分析した。また、授業の感想について、自由記述による回答を得た。得られた自由記述による回答は、キーワードをカテゴリに分類し、集計した。

3. 結果・考察

授業前から授業中において、原爆の是非についての回答を変更した児童は 25 名中 22 名 (88%) であった。したがって、本実践における 3 つの視点の提供が、児童らの原爆投下の是非の判断に揺さぶりを与えたと言える。

次に、表 1 に多面的・多角的な思考に関するアンケートの結果を示す。その結果、すべての質問項目において、肯定的な回答が有意に多かった。また、図 2 に原爆の是非について回答した理由を分類した結果を示す。なお、1 視点からの記述を一面的な視点からの意見、2 視点以上の複数視点からの記述を多面的・多角的な視点とした。その結果、児童が記述した回答において、一面的な視点からの意見が減少し、多面的・多角的な視点からの意見が増加した。

表 1 多面的・多角的な思考に関するアンケート結果

質問項目	肯定 (人)	否定 (人)	直接確率計算
長崎市の視点から考えた	22	3	**
枕崎市の視点から考えた	20	5	**
アメリカの視点から考えた	21	4	**

** : $p < .01$

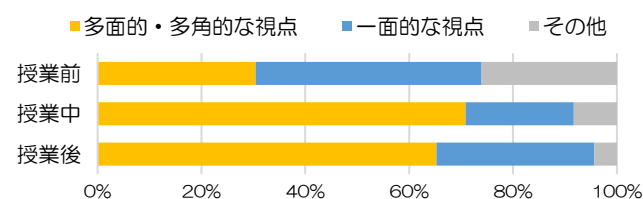


図 2 原爆の是非について回答した理由の分類

4. まとめ

本研究では、全天球 VR 教材を用いて多面的・多角的な思考を促す平和教育を実践した。その結果、原爆投下について複数の視点から思考し、議論することで、学習者の多面的・多角的な思考が促される可能性が示唆された。今後の課題は、全天球 VR 教材のインターフェースを改善するとともに、多面的・多角的な思考を促す手立てについて、知見を蓄積することである。

参考文献

N. Setozaki *et al.* (2017) Development of Spherical Panorama VR Learning Materials about the Pearl Harbor Attack, *International Conference for Media in Education*

(指導教員 瀬戸崎 典夫：初等教育講座)